

## 第7章 網走監獄

原田峻史

### 7.1 網走監獄の歴史

#### 7.1.1 網走監獄

網走といえば刑務所である。しかし、地元にとって好ましいイメージではない。戦時中、刑務所名変更の請願を、網走町（当時）が出した。衆議院を通過したものの、貴族院では不採択、網走刑務所の名はそのまま続くことになった。

戦後の高度経済成長期となり、高倉健主演の「網走番外地」シリーズの人気の影響で、刑務所は全国区の観光名所に躍り上がった。しかもただ観光に貢献しただけではなく、120年近い歴史をもつ網走刑務所は道東開拓の拠点であり、町の発展の礎だったともいえる。西南戦争などで急増した服役囚収容のため、明治政府は北海道に仏中央監獄をまねた樺戸、空知、釧路の三集治監を建設した。同時に道内横断道路開設に受刑者を使役することを計画した。その計画通りに北海道における中央道路は開削された。

現在の網走監獄は1973年から12年がかりで全面改装されている。このため旧刑務所の明治期の建築は、83年、刑務所を見下ろす天都山中腹に開館した「博物館網走監獄」に移された。

#### 7.1.2 囚人道路の開削

当時開国したばかりの日本は、富国強兵政策をとっており経済的に大きく発展するためには、未開の地北海道の開拓がぜひとも必要だった。また不凍港を求め南下政策をとるロシアの脅威から、日本を守るという軍事上の理由から北海道の開拓は大至急行わなければならない。そのためにはまず、人が運び物を運ぶための道路を作らなければならなかった。しかし、国の財政にそんな余裕はなく、そこで考え出されたのが増える一方の囚人を労働力として使うことだった。

網走刑務所は最初「網走囚徒外役所」と呼ばれ中央道路開削工事のため1890年1200人もの囚人が送り込まれた。道無き道を進む囚人の旅は険しい地形と熊との戦いだったという。道央とオホーツク海沿岸を結ぶ道路の開削工事が、1,000人を超える囚人により昼夜兼行で強行された。逃亡を防ぐため囚人は2人ずつ鉄の鎖でつながれながら（連鎖という）の重労働だった。死んだ囚人たちは、現場に埋葬され目印に鎖を墓標のそばに置いたと言い伝えられ、そこで誰言うともなしに囚人達の墓を「鎖塚」と呼ぶようになった。1955年から郷土史を研究する人々や住民を中心にこれらの遺骨を発掘する作業が熱心に進められるようになった。1,000人の従事者から看守も含め、200人以上の犠牲者を出したというのだ。

のちに「囚人は果たして二重の刑罰を科されるべきか」と、国会で追及されるに及びつい

に 1894 年廃止された。

### 7.1.3 網走監獄の大炎上とその復旧

網走監獄が網走分監として独立するに至った 1903 年、この年は監獄費全国庫支弁と決まり、監獄運営の予算措置がやりやすく、多少の施設の増改築もできるという矢先に、今度は 1909 年、網走監獄で山火事の飛び火が原因と云われるが、庁舎・獄舎・工場が全て焼失、木造の外壁まで焼失するという大火に遭っている。幸い独居房 1 棟と倉庫 4 棟が焼失を免れているが、在囚 743 名もいて集団脱獄の好機であったのであったにもかかわらず、不思議に 1 名の脱獄等もなかったのが、奇跡と言われている。ただ大火後の 1911 年、小菅・三池から各 150 名の凶悪不良囚の集団護送を受け入れてより因情が大きく悪化、工場での偽装喧嘩をきっかけに職員を殺傷するなど、特異な重大事犯を次々と引き起こしており、網走は依然長期重罪・処遇困難囚の留まり場という役割とイメージのもとにあった。

### 7.1.4 網走監獄にまつわる主要人物

- ・有馬四郎助（初代網走分監長）

1864 年鹿児島に生まれる。小学校訓導、京都府巡査、鹿児島県警部補を経て、22 歳で北海道集治監看守長兼書記（釧路集治監詰）に就任した。また、初代の網走分監長（奏任官）として囚徒による北海道の中央道路開削を指導、のち小菅刑務所長・典獄となる。

- ・寺永法専（慈恵院住職）

法専は 1893 年に布教活動を志し、網走へやってきた。翌年、1 人の出獄者が法専を訪れ、獄中生活の状況を話した。これがきっかけで免囚保護にかわるようになったのである。法専は毎月数回網走分監を訪れ、囚徒たちに教を説いた。そして、しだいに免囚者を收容するようになっていった。1907 年には免囚保護団体「網走慈恵院」を創立した。しかし、出獄者の中には逃走する者や再び罪を犯す者もあり、世間からは慈恵院は危険だ、と言われるなど苦勞の連続であったが、法専は彼らを労り続けたのである。

- ・大井上輝前（北海道集治監初代典獄）

青年時代函館より渡米。帰朝後、開拓使大主典、樺太詰など北方領土に関わる折衝・調整にあたる。釧路集治監（川上郡長兼務）として網走に囚人宿泊の仮監を選定、網走監獄の創設につながる。北海道集治監初代典獄、広い識見を生かし札幌区（現在の市）議会の初代議長をつとめる。

### 7.1.5 網走番外地シリーズ

#### 7.1.5.1 概要

網走番外地は 1965 年 4 月 18 日、東映の制作・配給により劇場公開された刑務所映画である。主演は高倉健で、監督は石井輝男であった。大雪原の脱走、トロッコによる追跡劇、列車による手錠切断から大団円まで主演の高倉が演じきり、スターダムに駆け上がった。こ

頃の石井・高倉コンビの映画は世の中から浮き上がってしまったチンピラや殺し屋が体当たりで敵にぶつかって命を散らしていく内容が多く、『東京ギャング対香港ギャング』『ならず者』『いれずみ突撃隊』で高倉の骨太なヒーロー像は確立していった。

#### 7.1.5.2 映画化まで

高倉健の代表作として有名であるが、高倉は最初ゴネており、監督の石井と岡田茂取締役（当時）は「主演は丹波哲郎でいく」と打ち合わせしていたといわれる。本作はそもそも添え物の企画であった。併映の京都撮影所製作による『関東流れ者』はカラーだったが、本作は最初カラーで企画されながら「主役の高倉健が脱獄囚であり、ヒロインにあたる女優が登場せず、ラブロマンスもないため興収を見込めない（だから当たりそうもない）」という理由で、石井が北海道のロケハンより戻ってきたときには「予算はカット、添え物の白黒映画にする」と決定した。それに対し、何とかカラーで撮らせてくれと執拗に迫った高倉健に対し、大川博社長は「文句があるなら主役を梅宮辰夫に変えるぞ!」と言い放ったという。“東映番外地”にされた撮影

クルーは、氷点下 30 度の北海道士別などでの撮影に臨んだ。「網走番外地」は大ヒットして続編「続 網走番外地」が製作されたが、次はカラーでとスタッフは勢い込んだが、再び大川社長は「白黒でやれ」と言われた。今田所長は困り果てた挙句、本作とは全く関わりがない俊藤浩滋に頼み、俊藤が大川社長に直談判してようやくカラー撮影の許可が降り以降はカラー作品となった

シリーズ作品は 2 年半の間に 10 本作られたため、興行は最後の頃は落ちてきた。このため 1967 年末封切りされた『網走番外地 吹雪の斗争』で、一旦終了と決定した。ところが東映の館主会で「高倉健と俊藤プロデューサーが組んだ網走番外地を撮って欲しい」という要望が出た。岡田茂から頼まれたが「冗談やない。ひとのやった企画をいまさらやれるかいな」と断ったが「いや、それは困る。館主会の決定なんや」と押し問答の末、岡田に押し切られ、俊藤のプロデュースで「新網走番外地」シリーズがその後 8 本製作された。

## 7.2 囚人による刑務作業

### 7.2.1 農業

昔、囚人の獄中作業としての農作業の土地に使われた二見ヶ岡農場は、1 世紀を超えた今日も網走刑務所の食糧基地として使われており、また広い農場での作業であるため職員に

図 7-1 網走番外地シリーズ



出所：TAP the TOP

よる監視は穏やかであり、物的人的警備に代えて受刑者責任と自立行動を促すという開放的処遇施設として更生復帰させる重要な役割を果たしている。農園刑務所である網走刑務所は、郊外に網走刑務所二見ヶ岡農場という分監の施設を 1896 年に設置し、刑務所の農場として日本一広い面積の土地を有効活用しながら受刑者に働く喜びを体験させ、健全な心身を作ること为目标とし、独自の農園訓練規定を設け寒冷地農業を設けている。

図 7-1 囚人による農作の様子



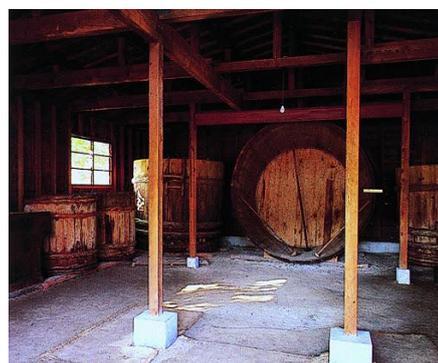
出所：博物館網走監獄

### 7.2.2 醤油・味噌作り

農園刑務所として自給自足を目指していた網走刑務所は、1892 年に 30 坪の味噌醤油工場を建てて味噌や醤油等の調味料を製造した。

大豆は麦に次いで耕作面積が広く、仕込みの手加減で微妙な味となるので、製造は経験の長い受刑者が専属にあたった。この蔵に展示してある大きな樽は五十石という樽で約 9,000ℓ (1 升ビン約 5,000 本) もの醤油が入る大きなものになっている。

図 7-2 味噌・醤油



出所：博物館網走監獄

## 7.3 監獄内の登録有形文化財

### 7.3.1 煉瓦造り独居房

網走監獄では、明治時代末期より、本州の監獄から煉瓦造りの技能を持った囚人を受け入れて煉瓦を焼き、出来上がった煉瓦を使い、この独居房もまた作られた。この独居房には窓がなく、扉は二重、しかも煉瓦の壁の厚さは、40cm 以上もある。

### 7.3.2 哨舎

明治 13 年に内務省が制定した図式に基づき、全国の刑務所で外部からの侵入や受刑者達の行動を監視するものとして設置された。

### 7.3.3 網走刑務所裏門

通称「通用門」と呼ばれた網走刑務所裏門は、赤煉瓦門扉制作開始の 1919 年に一番最初に着工した門である。

## 7.4 現存する網走刑務所

### 7.4.1 網走刑務所の概要

最北端の刑務所として位置する網走刑務所は、刑期 10 年未満で年齢が 26 歳以上の犯罪傾向が進んでいる受刑者（B 指標受刑者）を収容する短期累犯刑務所としていまなお現存している。定員 759 名だったが、2004 年から拡大整備工事が行われ新収容棟が増設、現在の収容定員は 1,560 名となっている。

### 7.4.2 現在の刑務作業

受刑者達は 1 日 8 時間の刑務作業に追われるが、その詳細としてつぎのようなものが挙げられる。それは自営である炊事、洗濯、大工、建築、土木などである。木工では、ニポポ人形、木製パレット制作、彫刻作業、木製玩具制作などである。他には金属加工作業や農業、職業訓練などが挙げられる。受刑者は、食事、休息、就寝時間以外の時間を作業時間に費やしているのである。また受刑者の制作しているニポポ人形は網走刑務所博物館のお土産品として売られている。

表 7-2 服役生活の詳細

|        |   |
|--------|---|
| 作業時間   | 一日 8 時間（改善指導などの時間も含む）であった。  |
| 一般改善指導 | 規則正しい生活習慣、および健全なものの見方や考え方を身に付けさせる等の養成がされた。  |
| 特別改善指導 | <b>【改善更生・円滑な社会復帰に支障がある受刑者】</b><br>薬物依存離脱指導、暴力団離脱指導、被害者の視点を取り入れた教育、交通安全指導、就労支援指導などを実施が実施された。 |
| 教科教育   | 国語・数学などの学科教育、通信教育（ペン習字・簿記・自動車講座など）を行った。   |
| 情操教育   | 紙手紙、書道、詩吟等のクラブ活動、読書などを通じて情操かん養を行った。   |
| 宗教教誨   | 教誨師による仏教・キリスト教・神道などの講話、宗教行事等を行った。   |
| 篤志面接   | 篤志面接委員による個別または集団面接指導、悩み事の解決、一身上の相談、出所後の生活設計などの助言指導を行った。                                     |
| 職業教育   | 部外講師による珠算指導等を行った。   |
| 余暇活動   | 体育訓練（卓球・ソフトボールなど）、レクリエーション（映画、テレビ・演芸など）、施設外教育（成績良好者は流氷見学やサンゴ草見学やサンゴ草見学などの施設外での教育）。          |

出所：刑務所.net

## 7.5 有名な監獄囚

### 7.5.1 白鳥由栄

遂に 1993 年に仲間数人と強盗殺人を犯し、その 2 年後に自首し投獄される。その際に収容された先の刑務所の待遇が劣悪だったことから抗議したところ、過酷な懲罰を受けたことが契機となった後、次々と脱獄と収監を繰り返す人生を歩むこととなった。

白鳥は相撲取りのような大男で五人力、足は扁平でどんな垂直の壁でも登れる超人的特技の持ち主であった。青森・秋田、前刑の網走でも脱獄済みで、堅牢を誇る秋田刑務所の円筒型独居房からも天抜け（天井から脱獄）している。網走には 1943 年に小菅から護送されてきた無期懲役囚で、定評どおり壁をたたけば四面に鳴りひびき、手錠は一息で簡単にねじ曲げている。放射状舎房の天井採光窓ガラスを頭突きして脱獄、のち札幌で逮捕されているが、ここも脱獄。府中刑務所に送られてから改心、立派に更生している。

表 7-3 白鳥由栄の生涯

|             |                                  |
|-------------|----------------------------------|
| 1907 年 7 月  | 青森県に生まれる。                        |
| 1933 年 4 月  | 青森市で強盗殺人を犯す。                     |
| 1935 年 8 月  | 土蔵破りの犯人として盛岡警察署に逮捕される。           |
| 1936 年 6 月  | 青森刑務所柳町支所を脱獄。三日後、市内の共同墓地で逮捕される。  |
| 1936 年 11 月 | 宮城控訴院において無期懲役が確定する。              |
| 1942 年 6 月  | 秋田刑務所を脱獄する。                      |
| 1942 年 9 月  | 捜索の網を潜り三ヶ月かけて上京し、小菅刑務所に自首する。     |
| 1943 年 4 月  | 小菅刑務所から網走刑務所に移監する。               |
| 1944 年 8 月  | 網走刑務所を脱獄する。                      |
| 1946 年 8 月  | 北海道空知郡砂川町(当時)において殺人を犯し、逮捕される。    |
| 1946 年 12 月 | 札幌地裁において殺人、加重逃走罪で死刑の判決を受ける。      |
| 1947 年 3 月  | 札幌刑務所を脱獄(第四回・39 歳)する。山中で三日間生活する。 |
| 1948 年 1 月  | 札幌市琴似町で逮捕される。                    |
| 1961 年 12 月 | 模範囚としての生活が認められ仮出獄が許可される。         |

出所：(斉藤充功,1999;「脱獄王～白鳥由栄の証言」)

### 7.5.2 五寸釘寅吉

神聖なお伊勢さんの国に生まれながら、寅吉は若いころより伊勢屈指の丁半博奕のいかさま師として知られていた。なにぶん警官に追跡され、土塀を超えた際に五寸釘を踏み抜き、そのまま三里も走って追跡をかわしたことがその名の由来であったそうである。空知集治監に送られ脱獄する。

樺戸集治監に送られれば石狩川の籠渡し素手で阿修羅のごとく伝って向こう岸に消え、

郷里に舞い戻る始末であった。今度は連続強盗罪で宮城集治監から再び樺戸へ送られ、ここでもまた脱獄、釧路から終着駅の網走へと送られた。時に49歳であった。網走に落ち着いてからの寅吉は、三たび生まれ変わっても服役しきれぬ刑期を背負いながら改心した。以来20年間、まったくの模範囚となり、網走監獄の表門を毎朝掃除する「晒掃夫」という最高の名誉である囚人に据えられた。

こうして72歳の高齢になり、法の涙である刑の執行停止という恩恵を受け、夢とも奇跡ともいえる出獄、「娑婆」へと戻ったのであった。ここで北見の興行師大川一郎が身柄引受人となり、「五寸釘寅吉劇団」を結成した。一行と共に全国を行脚、幕間に懺悔談を語って廻った。今もって寅吉は網走監獄きっての有名囚ナンバーワンといえるであろう。

### 7.5.3 海賊房太郎

埼玉生まれの房太郎は、今でいう早発性非行児で、幼年監のはしおりである浦和監獄川越分監を卒業した。徴兵されていたが、間もなく兵舎より脱走する。第一師団軍法会議で持兇器強盗の無期徒刑囚として網走へ送られている。

1906年11月7日、減刑により仮出獄するまで18年間服役、網走の隠然たる牢名手であったといわれている。この間、新富座で二代目東家楽遊により「海賊房太郎」という浪曲でその前歴が語られており、社会ではすでに有名囚でもあった。

出獄後、網走で同囚であった酒井米吉と共に滋賀の米原、多摩の田無、八王子などで連続強盗を働き、1908年府中で逮捕され、まぎれもなく、寅吉と共に明治の北海道の監獄の幕を閉じた有名囚の一人といえるであろう。

## 7.6 網走監獄用語

### 7.6.1 号令

網走監獄に限らず看守は、退役軍人、古参巡查の経歴のある者は優先的にされたということもあり、当時の内地でも囚人には軍隊用語で命令した。喫飯（きっぱん）は食事を始めの号令、洗面（せんめん）は顔を洗えという一斉動作の号令をあらわす。農場など外役（構外作業）に行く場合、「整列」、「2列」、「肩を合わせ、前へ」の3つの命令で進んでいく。

### 7.6.2 カンカン踊り

新人囚、就役、罷業時の更衣前、ハードル式の股ぎ木を、丸裸で踊るような姿勢で両手両端を広げ、飛び越えるように次から次へと通過してゆくことから、このような言葉が次々と自然発生したと言われている。

### 7.6.3 だらはめ

明治中期のころまで、着鎖場で外役囚の足に付着した鉄丸つきの鎖で、囚人間の通称語。

鉄丸は以後付着されず、鎖のみ。

#### 7.6.4 箱馬車

囚人護送馬車をいう。網走監獄では市内の台町にある釧路地方裁判所網走支部の法廷に出廷させるために用いられた。網走監獄には男子刑事被告人のほか女子刑事被告人も若干在監していた。

#### 7.6.5 船運搬

監獄専用の小舟で、網走湖上を農具、収穫物、伐木、農耕団を乗せ本監と外役先の越歳農場を行き来する水運を言う。囚人が棹で操船する網走独特といえる情景でもあった。

#### 7.6.7 キリギリス監房

放射状舎房の2舎は各房が約三坪の雑居房で、その格子囲いの風体から、キリギリスの虫籠に入れられた感じで、囚人仲間ではこのように呼ばれていた。山口監獄でも似た監房があり、「ギス監」と呼ばれていた。

#### 参考文献

- ・ 斎藤充功,1999,『脱獄王～白鳥由栄の証言～』,幻冬舎アウトロー文庫
- ・ 重松一義,2002,「博物館網走監獄」

#### 参照 HP

- ・ 博物館 網走監獄

<http://www.kangoku.jp/display1.html>

- ・ 日本の近代遺産 50 選

<http://www.adnet.jp/nikkei/kindai/21/>

- ・ 北海道ファンマガジン

[http://pucchi.net/hokkaido/history/kitami\\_road.php](http://pucchi.net/hokkaido/history/kitami_road.php)

- ・ レトロな建物を訪ねて

<http://gipsypapa.exblog.jp/20424016/>

- ・ 刑務所.net

<http://keimusho.net/6abashiri.html>